

清教学園
剣道部
主要掲額



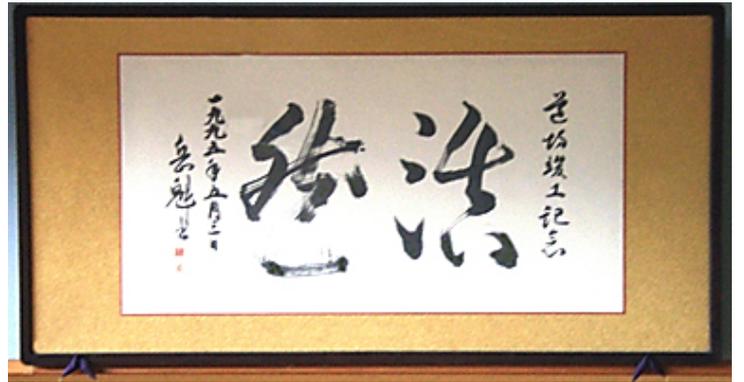
道場看板

辻野 正勝 先生 揮毫 1989

櫨一枚板 重坂 卓氏 寄贈



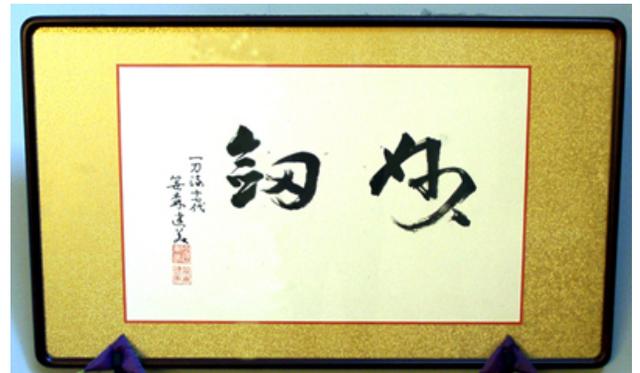
百錬自得 辻野 正勝 先生 揮毫 (面手拭額装) 1990



浩然 辻野 正勝 先生 揮毫 1995



無想剣 笹森 建美 小野派一刀流 宗家 揮毫 1995



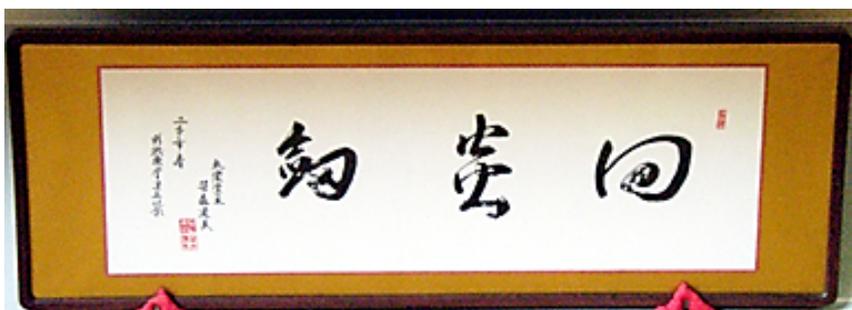
妙剣 笹森 建美 小野 派一刀流 宗家 揮毫 1995



謝四恩 岩立 三郎 範士 揮毫 2004



一期一会 大西 友太郎 天川村長 揮毫 2005



回炎剣 / 志道向上 笹森 建美 小野派一刀流 宗家 揮毫 (面手拭額装) 2000 / 2004



ご挨拶

神谷 昌宏

28年間、清教学園で教員生活を送らせて頂きました。赴任初年度より剣道部の顧問をさせて頂き、大きな事故もなくこのたび退任できたことは何よりのことと安堵しております。

1989年(平成元年)からの剣道部顧問としての歩みはそれほど順調なものではありませんでした。道場もなく、極端に天井の低い畳敷きの柔道場が練習場という環境の中での船出でした。面手拭・道場看板・名札・額といったものもなく、また部室も狭くて暗く、しかも湿気の多い倉庫を男女部員が一緒に使用しているといった、ないない尽くしの環境でした。中学剣道部はまだ認められていませんでしたが、部員数は意外と多く21名が在籍していました。ただし4月の私学大会で高3(20期生)8名が引退しましたので、その後は13名での部活でした。土曜日には板張りの床を求めて、上峠先生が指導されている大阪商業大学附属堺高校によく出稽古に行かせて頂きました。

そのような中、辻野先生に『百錬道場』の看板と、面手拭作成の為の『百錬自得』を揮毫頂き、それを額装し畳の道場に掲げました。着装や礼法、防具・道着の始末、竹刀の整備などの基本的なことが一通り安心して見ていられるようになるまでに2年ほどかかったと記憶しております。同時にこの時期は清教学園が評価され、難関大学進学校としての認識が定着した頃と言えます。文武両道は大変な苦労ですが、今日まで全ての部員は本当によく頑張り、成果をあげてきたと高く評価することができます。

1995年(平成7年)に現在の百錬道場(第2体育館)が竣工。それを機に中学校剣道部も正式に認められました。この時、辻野先生により『浩然』が揮毫され掲額されました。部員数も増え、稽古も一層活気あるものとなりました。このころからは出稽古に出かけることは少なくなり、代わって他校の方々の来校が徐々に増えだしました。道場開放も積極的に進め、卒業生はもとより、先生方や剣道愛好家がそれぞれの都合に合わせて来校くださるようになりました。また幼稚園児や小学生も稽古に参加する日もあり、清教独特の稽古環境ができてきた頃だと思えます。

海外からの留学生が部員として参加することも増え、これまでに、中国、スウェーデン、ノルウェー、フィンランド、タイ、ブラジル、ドイツなどの部員たちが汗を流しました。短期留学を除き、全員初段を取って帰国してくれました。

進学校でスポーツ推薦入試など皆無の清教学園が、激戦地大阪にあってベスト8以上に入るのは、中高ともに非常に難しいことでした。近畿大会出場は、届きそうで届かない壁でした。しかし35期36期のメンバーからなる男子団体チームが初めてそれを突破してくれました。

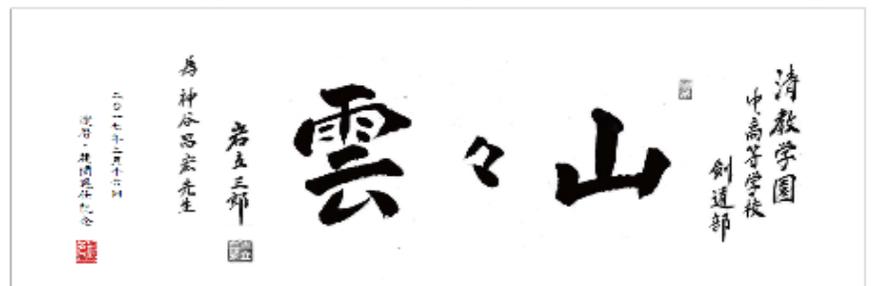
その後は、中学近畿大会に女子個人(40期卒)で出場。続いて同選手がインターハイに出場してくれました。この時の女子団体メンバーは近畿選抜大会(府下ベスト4以上)にも出場を果たしました。また44期生からは女子大阪個人選手権者が出ました。

高体連の先生方の中でもこうした試合の監督になれるのはほんの一握りですが、その栄誉を頂き顧問冥利に尽きる経験をさせて頂きました。もちろんこれは、来校くださる先生方や、各部員が所属する道場の先生方のご指導の賜物であることは言うまでもありませんが、大変名誉で貴重な体験をさせて頂いたと感謝しております。

今更言うまでもありませんが、私の剣道の技量や指導者としての資質はお世辞にも高いとは言えません。周りには剣道家として技量・人物ともにとっても優れた方が相当数おられます。しかし私に与えられたような環境や条件に恵まれている方はそれほど多くはありません。具体的には、潤沢な部員が常にいてくれたこと、背後の保護者の理解と献身的な協力を頂いたこと、卒業生が稽古を含めて多方面から支援して下さったこと、川頭先生はじめ実に多彩な学外の先生方が親身に指導して下さったこと、そして学内にあっては、顧問団が盤石の体制を敷いて下さったこと、ハード面では道場が与えられたこと、最後に理解ある家内が機嫌よく試合や稽古に私を送り出してくれたこと、等です。言葉で言うのは簡単ですが、これらの一つとして欠けていたならば、剣道部の運営はたちまち行き詰まるか、あるいは大きな支障をきたすことになったと思います。それが28年間も停滞することなく与えられ続けたということは、奇跡とは言わないまでも、稀有なことだと改めて感心いたします。

クラブ運営においては、私個人の価値観の押しつけもあり、戸惑いを覚えることも相当あったのではないかと思います。そのような指導方針に、不満も言わずに部員たちがよくついてきてくれたのだと感慨を覚えます。例えば、春期遠征においては笹森宗家、岩立範士に指導を頂いてまいりました。これなども私の価値観の一つの押しつけと言えます。これは『どのような芸道にあっても、一流・本物を見、指導を受けるという体験は決して無駄に終わることはない』との思いから続けてきました。『厚かましいにも程がある』と周りから囁かれつつも、両先生並びに御門下の先生方に甘え続けてまいりました。また青山学院中高等部五十嵐先生(故人)、都立青山高校佐藤先生、並びに部員の皆様にも感謝しかありません。さらに夏期合宿においては私の母校である桃山学院をはじめとして多くの学校の先生方にご指導を仰ぎました。平素も身内という思いから、忌憚のない事がお互い言い合えるお付き合いを頂いたことは本当に感謝なことでした。

清教学園理事長旗争奪高等学校剣道大会は、畳の道場しかなかった頃に、出稽古でお世話になった高校をお招きして感謝しようという趣旨で始めました。第1回は6校の参加で、河内長野市立武道館、2試合場で行いました。年を追うごとに参加校が増え、会場を河内長野市民体育館に移し、試合会場も順次増やして、現在のような大掛かりな大会となりました。部員・保護者の方々にとっても大変なご負担を強いることとなってしまいました。これもまた私の我儘から出たことで申し訳なく思っております。



このたび皆様にお持ち頂く面手拭は、岩立先生が私の退任を記念して揮毫くださいました。生徒にも分かり易いよう楷書にて揮毫されています。稽古に末永くお使い頂ければ幸甚です。

最後になりましたが、皆様方には今後とも、よろしく清教剣道部にご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。また個人的にも引き続き御交情を賜りますようお願い申し上げます。

皆様の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

ありがとうございました。感謝。